

**「水産教育のあり方に関する検討委員会提言案」に対する
意見募集（パブリックコメント）の結果について**

水産教育のあり方に関する検討委員会

- 募集期間 平成21年6月15日（月）～7月10日（金）
- 募集件数 4名から5件・16項目のご意見をいただきました。
- 意見の内容 意見の番号は整理番号

1 教育内容に関する意見

番号	意見（要旨）	件数	検討委員会の考え方
1	教育内容の改善が必要。水産食品のトレーサビリティが必要。	1	教育内容については、提言においても様々な内容を取り入れるよう提案しました。具体的な内容についてあまり細かく例示していませんが、水産食品のトレーサビリティについては、すでに昨年度より、浜田水産高校の『地域産業の担い手育成プロジェクト』の中で取り組んでいます。
2	可能であれば、料理人などを外部講師としてまねき、より実践的な教育を行ってほしい。	1	民間の外部講師については、提言においても積極的に活用するよう提案しています。
3	水産高校において流通の勉強なども必要。	1	流通については、現在各校で科目「水産流通」、「マーケティング」、「簿記」で学習しています。
4	資格をたくさんとることはいいことだが、果たして充実した教育が受けられるのか。	1	充実した教育を受けた結果、多くの資格が取得できると考えています。
5	水産高校は、水産業に準ずる船員を教育するのか。	1	質問の意味が不明な部分がありますが、両水産高校を卒業後、船員になる生徒は多くいます。
6	学習体験として、地元漁師宅に何班かに別れて合宿するのはどうか。	1	昨年度から始めました『地域産業の担い手育成プロジェクト』の中で、浜田水産高校、隠岐水産高校両校の生徒たちは、地元の漁師さんから直接漁業技術等の指導を受けています。

2 水産練習船に関する意見

番号	意見（要旨）	件数	検討委員会の考え方
7	大型練習船はいいことだと思いますが、船を維持するにあたってのコストの違いなどがわからない点があります。	1	コストについては、検討委員会において事務局の試算を元に検討しました。事務局の試算では、従来の大型練習船と中型練習船2隻体制に比べて、大型練習船1隻体制の場合は、ランニングコストにおいて1年間で6,000万円程度の減となります。
8	水産関係者になる人が少ないのに、大型練習船が必要でしょうか。	1	専攻科の生徒が取得を目指す資格である3級海技士の免許を取るためには、日付変更線を超える航海実習を実施する必要があります。そのためには大型練習船が必要になります。専攻科を卒業した生徒のほとんどは、水産・海運関係の会社に就職しています。
9	疑問に思うのは、ハワイ沖のように、船の運航が過密な地域を選んでの訓練がなぜ必要なのかということである。	1	ハワイ沖は通年、気候が温暖で時化も少なく安定した海域であり、周辺海域がマグロの好漁場です。また、ホノルルは治安も良く、医療設備が充実している病院が多いので、生徒及び乗組員の事故等に十分な対応を取ることができます。
10	国内の水産高校同士が親交を持つために、合同訓練としてはどうか。又は、持ち回りとして使う方法はどうか。	1	各県の水産練習船の運航日程が異なるため、合同訓練をすることは困難です。また、乗船実習については、所属の実習船を使用して実施するよう高等学校学習指導要領に記載されていますので、持ち回りとして使うことはできません。
11	「60名分の生徒定員を確保できる」…このことは必ずしも（+）要因とはならない。 生活年齢が異なる生徒集団を多人数乗船させての長期航海は、体の順応性や、知識・技術に差がある生徒集団が混乗するという形になり、船上での実技指導、生活指導などの対応が複雑化し、個に配慮した適切な指導が困難となる。	1	ご指摘の趣旨を踏まえ、個に配慮した適切な指導ができるように対応してもらいたいと考えています。

番号	意見（要旨）	件数	検討委員会の考え方（案）
1 2	<p>「（大型練習船の方が）船舶の安全性を高めることができる」…必ずしもそうとはいえない。</p> <p>荒天等に対する安全性は高まるが、ほとんどの事故は、操船ミス等による座礁事故等であるので、乗組員の高い船舶運航技術が求められる。</p>	1	<p>ご指摘の点を踏まえ、安全性の確保について、乗組員には、高い船舶運航技術を身につけて操船してもらいたいと考えています。</p>
1 3	<p>これまでの水産教育の歴史や実績から考えて、生徒の生活年齢等に配慮した段階的な実習（沿岸→沖合→遠洋）は教育の基礎・基本を踏まえた発展的な乗船実習の展開には不可欠なものである。</p> <p>大型船による中途半端な実習形態では島根の地域や企業に必要な水産のスペシャリストを育てる知識・技術を身につけさせる状況に結びつかない。これまでの島根県と同様に理想的な練習船配備をしている他県もある。</p>	1	<p>中型練習船による沖合漁業実習がなくなることを補うものとして、新造大型練習船による沖合漁業実習と、地元漁船を利用したインターンシップ等を有効に活用していただきたいと考えています。</p>
1 4	<p>水産練習船のあり方の部分についてのみ、最初に結論ありきというかたちでのまとめになっている感じが強く問題があると思う。</p> <p>まず中型練習船を代船建造し、現在稼働中の大型練習船をできるだけ長期間使用して建造費の負担軽減を図る。大型練習船の耐用年数が来たら下記のいずれかの案を選択。</p> <p>①代船建造、②隣接県との共同運航 ③乗船実習の一部を隣接県の大型船に委託</p>	1	<p>検討委員会におきましては、水産練習船の今後のあり方について、「最初に結論ありき」ではなく2隻体制の可能性も含めて、十分に検討いたしました。</p> <p>なお、乗船実習は、所属の実習船を使用して実施するよう高等学校学習指導要領に記載されていますので、共同運航は困難です。また、他県に委託することも不可能です。</p>

3 その他

番号	意見（要旨）	件数	検討委員会の考え方（案）
15	<p>隠岐、浜田2校を県内で所持するより、2校を1校にまとめた方がコストダウンにつながり、地域活性化などにもつながるのではないかと。</p>	1	<p>検討委員会は、「浜田、隠岐両地域とも水産業が、その地域の産業を特色づける大きな要素となっており、その地域の振興には欠かせない産業の柱となっている。浜田水産、隠岐水産の両校には、海洋系学科、食品系学科があり、それぞれの学科が地域の水産業を支える人材を育成する役割を担ってきた。今後、地域が求める産業人材を輩出するため、教育内容をより充実させる必要がある。」と提案しております。今後とも2校が各地域の水産業を支える人材を輩出して、地域の活性化に大きな役割を果たすと考えています。</p>
16	<p>地域の人、関係会社などの水産高校に対する思い、イメージなども意見をとり入れることで、本当の水産高のあり方がわかるのではないかと。</p>	1	<p>検討委員会は、浜田、隠岐の各地区の水産業関係者や行政関係者を検討委員としており、その方々から十分意見をお聞きしたと考えています。</p>